

高校福祉科における修学継続困難の要因に関する研究

○ 日本福祉大学大学院 医療・福祉マネジメント研究科 後藤 静 (8529)

キーワード：高校福祉科、修学継続、社会福祉現場実習体験

1. 研究目的

筆者は平成 19 年度から 7 年間、G 県立 A 高校福祉科で教科「高校福祉」の教員として、勤務している。その間、何人もの生徒が修学継続困難な状況に陥り、退学を余儀なくされるケースに遭遇してきた。これらを踏まえ、高校福祉科における修学継続を困難にする要因を調査し、高校福祉科の教育のあり方を考察することを本研究の目的とする。

2. 研究の視点および方法

仮説の設定 先行研究の検討と筆者の経験を踏まえ、以下の 5 つを設定した。①高校福祉科に介護福祉士国家試験資格を取得するために入学したなどの明確な入学動機を持つ者は、修学継続困難な状況に陥りにくい。②高校福祉科の教育内容、指導方法は、在籍生徒の能力や理解力と求められる到達点が高すぎる、ついていけないという点で合致しておらず、そのことにより授業に興味がわかない、授業内容がわからないなどの学業不適応者をもたらしている。③在学中、退学を考えたことのある生徒が修学を継続できている要因には、友人を始めとする周囲の人による支援があげられる。④高校福祉科生徒の退学要因の 1 つとして、貧困家庭に育つなどの家庭の環境が影響している。⑤社会福祉現場実習体験で得たリアリティショックは、修学継続困難な状況を誘因する。**調査の対象と方法** 調査は、平成 23 年度に G 県内の A～D 高校福祉科 4 校の福祉科在籍生徒 415 人（男子 59 人、女子 356 人）を対象に、自記式質問紙調査を行った。クラスごとに一斉に調査票を配布し、生徒が回答を記入後、直ちに回収する方式を採用し、欠席した生徒については、日を改め調査を実施したことにより、対象生徒全員から回答を得た（回収率 100%）。回収したデータは、SPSS を使用し、単純計算及びクロス集計を行い、 χ^2 二乗検定より有意差を検定した。

3. 倫理的配慮

調査に関する許可申請を行い、G 県立 A～D 高校長の許可を得た。調査対象者には、データの匿名性、プライバシーの保護、研究以外の目的で使用しないこと、今後の成績や指導に何ら影響もないなど不利益がないことなどを明記した文書を配布し、無記名のうえ提出を依頼した。なお、研究及び調査は、日本社会福祉学会「研究倫理指針」を遵守し行った。

4. 研究結果

退学をしたいと考えたことがあるか G 県内の高校福祉科に在籍する生徒の 41.2%が、退学を考えたことがあると答えていた。**高校福祉科への入学動機** 福祉科には、「介護福祉士

国家試験受験資格が欲しかった」(31.6%)などの明確な動機を持ち、入学してきていた。しかし、在学中に「退学を考えたことのある」生徒は、「中学校の先生に勧められた」などの受動的で明確な理由を持たずに入学してくる傾向があった。**高校福祉科での授業満足度・理解度**「退学を考えなかった」生徒と「退学を考えたことのある」生徒の双方に相違は見られなかった。**社会福祉現場実習体験**「退学を考えなかった生徒」も「退学を考えたことのある」生徒も、「介護の大変さを知った」機会だと感じていた。しかし、実習で得たりリアリティショックを、「退学を考えなかった」生徒は、「自分の知識や技術のレベルを確認できた」などとプラスイメージとしてとらえているのに反し、「退学を考えた」生徒は、「良かったことはない」とマイナスイメージとして受け止めていた。**高校福祉科を続けていくうえでの困難・苦労**「退学を考えなかった」生徒も「退学を考えた」生徒も「福祉科目の勉強は難しい」ことに困難・苦労を感じていた。「実習費やその他の経費の負担が大きい」(33.3%)に困難・苦労を感じていると答えている生徒は「退学を考えた」生徒に多かった。**高校福祉科生徒の家の経済状況**「厳しい」と答えた生徒は、4校のうちC高校福祉科を除く3校が、「退学を考えた」生徒が「退学を考えなかった」生徒を上回っていた。**退学をしたいと考えた生徒が実行に移せなかった理由**退学を考えたが「友達に励まされた」などの「友人との人間関係」(27.5%)で実行に移せなかったと答えていた。

5. 考察

仮説の検証 調査により仮説①③④⑤は支持された。仮説②は、調査により、生徒の多くは、授業に満足をしており、授業内容も理解しているという結果が得られたことにより、高校福祉科での学業不適応は、生徒個人が持ちうる理由により、欠席が増えるなどによって、成績不振・単位不認定となることによるということが示され、棄却された。**本研究から得られた主な知見** ①明確な入学動機を持ち高校福祉科に入学してくる生徒は修学継続困難な状況に陥りにくい。②実習で受けたリアリティショックは、高校福祉科を修学継続することに影響を与えている可能性がある。**高校福祉科が抱える教育課題** 本研究から得られた高校福祉科が抱える課題は、次の4点である。①高校福祉科に、主体的で明確な理由を持ち、入学してくる生徒の確保のためにも小・中学校での福祉教育を充実させることが必要である。②実習で得たリアリティショックをマイナスイメージからプラスイメージへ転化するための指導や支援などの教育的方策が重要である。③高校福祉科に必要な経済的負担の軽減もしくは見直しを図ることは、修学継続していくために必要である。④高校福祉科で学ぶ生徒間の豊かな人間関係の構築が図れるようなクラス経営や授業づくりに努める必要がある。高校福祉科に明確な理由を持ち入学してきた生徒は、修学継続困難な状況に陥りにくい。**総括** 高校福祉科での修学継続と「家の経済状況も含む生徒を取り巻く環境」「社会福祉現場実習」「友人との人間関係」は、関係が深く、これらが困難な状況に陥ると修学継続も困難な状況となりうる可能性があることが考えられる。